令和2年新年会兼令和元年秋叙勲伝達式 山田大使挨拶

2020年1月23日@大使公邸

皆様、新年明けましておめでとうございます。

本日は、令和2年新年会及び令和元年秋の叙勲伝達式にお越し頂き誠にありがとうございます。皆様とこのように新年をお祝いできることを大変嬉しく思います。

今年2020年は、日伯外交関係125周年、在日ブラジル人コミュニティ30周年に当たります。私は、2017年に駐ブラジル大使として着任以降、昨年のアマゾン移住90周年など、様々な機会にこれまでブラジル国内の各都市を訪問し、各地の日系社会の皆様とお会いする機会を得ました。今後とも、日系社会との関係を大切にしつつ、ブラジル各地の日系社会との関係をさらに強化すべく努力を惜しまぬ所存です。

昨年は、両国間で様々な交流が行われました。ボルソナーロ大統領は、大阪でのG20サミット及び即位の礼の機会に2度訪日し、安倍総理と3度首脳会談を行いました。このように両国お関係は緊密になっていますが、今年も政治・経済・文化・スポーツなどのあらゆる分野での交流を活発にするために努力していきます。

また、今年はいよいよオリンピック、パラリンピックが東京で開催されます。ブラジル選手の活躍を期待し、スポーツを通じた日伯交流を一層進めていく所存です。特に、現在オリンピック予選が行われているサッカーに関しては、現在ブラジル男子チームは予選において2連勝という好成績を残しています。南米において私ほど熱を込めて任国のチームを応援している日本大使はいないと思います。ブラジル代表には私がここブラジリアから念を送っていますので、ブラジル代表は必ずやオリンピック出場権を獲得することと確信しています。

さて、それではここで、今回叙勲を伝達する2名のご功績を紹介させていただきます。

まずは、オジビ・テイシェイラ・ジ・カルヴァーリョ・フィーリョ氏です。国費留学生として訪日した経験をもつオジビ氏は、ブラジルに帰国後、文部科学省国費留学およびJICA研修制度の広報や選考に長年にわたり貢献されました。2002年からは10年にも亘りブラジリア元国費留学生同窓会（ABRAEX）会長を務められた他、全国元国費留学生全国会合を創設し、元留学生・研修生間のネットワーク構築を目的とする様々なイベントの実施に尽力されました。また、当地の主要大学とも連携し、国費留学生の専門分野を活かした課外特別講義の設定、帰国留学生への就職情報の提供等にも積極

的に携わってられました。さらに、当館主催の文化事業や当地日系団体によるイベントにおいても広報活動等に尽力された他、ブラジル日伯文化交流会や日本人ブラジル移住100周年の関連行事にも積極的に協力するなど、日本文化の普及に大きく貢献されました。

オジビ氏のこれら功績をたたえ、本日ここに「旭日双光章」を伝達いたします。

次は栗木千代子氏をご紹介します。

福岡県で生まれた栗木氏は、家族とともにパラグアイを経てブラジルに移住されました。その後単身サンパウロ市からブラジルに移った栗木氏は、約40年にわたり、大使館の外交活動を支え、ひいては日伯関係の発展に貢献されました。儀典班に所属した約20年間においては、8名の大使の秘書業務に従事。大使秘書として、当時の大使を献身的に補佐し、日伯関係の進展に大きな貢献されました。また、会計班、経済班においても、堪能な語学力を活かし、それぞれ約10年間、関連業務に従事し大使館の外交活動を献身的に支えました。また、栗木氏のご主人が幹部職を務められた日伯文化レクリエーション倶楽部の文化行事においても、他の日系人婦人とともに焼きそば等の和食の準備、調理、販売に携わり、ブラジルにおける和食の普及に貢献されました。

栗木氏のこれら功績をたたえ、本日ここに「瑞宝双光章」を伝達いたします。

なお、今回の令和元年秋の叙勲においては、当館管轄地域からは、元ゴイアニア日伯文化協会会長で現同協会の審議会議長であるジャジール・マツイ氏もあわせて受章されましたことをお伝えします。

オジビ氏・栗木氏・マツイ氏の御功績に改めて心からの敬意を表すると共に、長年にわたり支えてこられたそれぞれの御家族の皆様にも敬意と祝意を申し上げます。

最後に、今回叙勲された方々、御家族の皆様、御出席の全ての皆様の益々の御健勝をお祈りするとともに、今後の日系社会の更なる発展、さらに日ブラジル関係の緊密化を祈念して、私からの挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。（了）